

【腹診について②】

虚実

- ・ 虚の証：やや くぼんで、張り・艶・弾力が無い。
- ・ 実の証
 - ①旺気実：皮膚が滑らか、張りが有る、やや盛り上がっている。
 - ②邪気実：表面は虚。軽く按压すると深部に硬結を触れ、痛みを伴う。
(按じて牢)

※「牢」＝動かしがたい硬い反応の意味。堅牢、牢固。

- ・ 難病痼疾による虚の証（癢）：
「按じて牢」だが、痛みは少なく生気の無い不快感を訴えるもの。
脾や腎の診所で時々あらわれる。

腹部の名称

- ・ 大腹：へそより上
- ・ 小腹：へそより下

正常な腹

- ・ 肋骨弓が鳩尾から章門に向かって ほぼ90度。
- ・ 虚里の動（心尖拍動）が緩やか。
- ・ 大腹・小腹ともに緩やかな膨らみ。

※肋骨弓が極端に狭く鋭角なものを狭胸といい 虚弱体質にみられる。

腹診の触り方

- ①仰臥位の患者の左側に立つ4.
- ②左手の掌でへそを隠すように覆う。
- ③「②」の状態より、四指で肺の診所・母指で比較部位を押さえる。
- ④手を滑らせて「脾→肝→腎」と触診する。

※気の変化を目的とするため、強く按压してはいけない。

